



1

Photo1 能勢シェフの丁寧な指導を真剣な表情で聞く参加者。**2**参加者が作った「京芋のフリット春ごぼうのスープクレソン添え」と「おいも豚肩ロースソテー野菜のマリネ」。**3**完成後は試食し、本格的な料理を味わいました。



2



3

一流シェフの技術学ぶ 小林西高で料理教室

2月26日と27日、東京のフランス料理店「俺のフレンチ」能勢和秀総料理長の講師を務めた料理教室が小林西高でありました。1日目は、JA女性部などの5団体の参加者37人、2日目は同校調理科2年生35人が参加。初めに能勢さんが調理を実演し「京芋のフリットはしっかり揚げるのが重要」などのコツを説明すると、参加者は、本格的なフレンチに挑戦しました。



3

「もみじの里」を目指して 須木の住民ら苗木を植樹

2月から3月にかけて、須木の3地区の住民らがモミジなどの苗木を植栽しました。住民と行政が協力して、須木地区を「もみじの里」(なかもみ)として景観整備する「もみじの里事業」の一環。3月9日には、中河間地区で住民ら41人が参加し、モミジ、サクラ、ナンテン、ツツジなど125本を植樹。平成26年度は、ままこ滝周辺の整備や各地区で植栽が行われる予定です。



1

Photo1 麓地区。沿道のほか、城山公園にもドウダンツツジ30本を植樹(2月27日)。**2**上九瀬地区(2月16日)。住民らが協力し、沿道斜面で作業。**3**中河間地区(3月9日)。子どもも積極的に参加し、苗木を植える

2



アシモと交流する児童ら。3年生の和田煌莉さんは「初めて見てびっくりした。作り上げるまでの苦労も知れてよかった」と話しました

ロボットの歩行に児童ら歓声 小林小にASIMO(アシモ)

2月25日、小林小学校にホンダが開発した人間型自立二足歩行ロボット「ASIMO(アシモ)」が訪れました。アシモは、体育館に集まった児童の拍手の中、歩いて登場。ダンスやボールを蹴ったり、注文を受けた飲み物を運んだりするアシモの動きに、児童らは歓声を上げていました。

市出身の実業団選手が指導 ハンドボール教室開催

2月23日、「全日本ハンドボールリーグ小林大会」の出場選手が指導するハンドボール教室が市民体育館でありました。小学生から高校生まで約200人が参加。小林工業高出身の甲斐昭人さん(トヨタ車体)と野間祐希さん(トヨタ自動車東日本)が、パスやシュートなどのコツを指導しました。



野間さんは、「目標を持つことが大切。どうすれば達成できるか考えて練習を頑張ってください」と子どもたちを激励しました



ふれあいの里、あさひの里ハッピーポパイ、ふれあいさろん「元気、菜の花作業所の4事業所が、玄関前にテントを張り出店しました

障がいの理解と商品販売促進 第1回福祉しよっぷ開催

2月21日、市内の障がい福祉サービス事業所で作られた製品を展示・販売する「第1回福祉しよっぷ」が、市役所本庁玄関前で行われました。障がいへの理解と商品販路拡大を目的に、事業所や市などでつくる実行委員会が主催。市内の4事業所が出店し、食品や工芸品などが販売されました。

高校スポーツ振興に役立てて 米良企業グループが寄附

2月18日、米良企業グループ都光電機産業(株)が、市体育協会に100万円を寄付しました。同社は、昨年(2013年)の全国大会で好成績を収めた小林高校駅伝部や小林秀峰高校新体操部の活躍に感動し、寄付を決意。米良宗真取締役常務は「スポーツ振興と青少年の育成に役立てて」とあいさつしました。



市体育協会安楽重則会長は「思いをしっかりと胸に刻み、努力と精進を重ねて、県民の期待に応えていきたい」とお礼を述べました

市出身の学生音楽家が演奏を披露

2月22日、音楽を学ぶ学生の演奏会「夢きらめきコンサート」が文化会館で開催されました。コンクールで優秀な成績を取めた市出身の小学生から大学生9人の演奏を聴こうと約370人が来場。ピアノやマリンバなどを披露すると、会場は大きな拍手で包まれました。



自動車整備振興会が下敷きなど寄贈

2月26日、自動車整備振興会小林支部が、市教育委員会に交通ルール下敷きや防犯グッズを寄贈しました。下敷きなどは小学校新1年生全員に配布予定。田中節夫支部長は「交通事故は増加傾向にある。子どもたちを事故から守るため、役立ててほしい」と話しました。



たなかせつお

自衛隊に入隊・入校する学生ら激励

今春、市内から自衛隊や防衛大学などに入隊、入校する10人の激励会が2月26日、市社会福祉センターで開催されました。市や自衛隊関係者ら約50人が参列。入隊、入校者を代表し、皆越大貴さんが「精一杯努力して、立派な自衛官になります」と決意を述べました。



自慢の歌や踊りを披露し交流を深める

3月5日、市老人クラブ連合会文化部主催の「第17回生き生き大会」が百歳会館で開催されました。高齢者の生きがいと健康づくりを目的とした、歌、踊り、体操や手品などのサークル38団体、約130人が参加。1年間の練習の成果を披露し、交流を深めました。



漆野さん農林水産大臣賞受賞 米苗床の軽量化の成功が評価

3月17日、全国青年農業者会議で最高賞の農林水産大臣賞を受賞した漆野智規さんが市長を訪問しました。米の苗床に炭化したもみ殻を混ぜた使い、軽量化し作業時間の短縮に成功した実績が評価。漆野さんは、「全国に広まり、同じ農家の人たちの負担が減ればうれしい」と話していました。



同賞の受賞は県内では2人目。全国青年農業者会議は、農業や農村生活環境の改善について若者たちが互いに発表する場です

「人と人とのつながりを大切に」 参加者1,000人自殺対策学ぶ

3月20日、自殺予防フォーラムが文化会館で行われました。約1,000人が来場し、楽器の演奏、講演やパネルディスカッションを実施。講師を務めた宮崎県立看護大学江藤敏治教授は、うつ病と自殺の関係性を説明し「人と人とのつながりを感じて行動することが大切」と話していました。



パネルディスカッションでは、保健所、市ロータリクラブやこばやしハートムなどが活動を紹介し、自殺予防の知識を深めました



愛・夢・絆・命がテーマ 教育フォーラム

3月9日、学校・家庭・地域の教育フォーラムが文化会館で開催されました。約1,680人が来場し、「愛・夢・絆・命」の4部構成で、それぞれテーマに沿った内容を児童生徒、保護者、地域住民らが発表。命がテーマの第4部では、市青年団協議会を中心に子どもから大人まで約150人が、「こばやし発はしれ!!ぞうれっしゃ」を歌い上げ、平和や命の尊さを伝えました。



Photo1 今年で15回の節目を迎えた「こばやし発はしれ!!ぞうれっしゃ」。2「保育士になるために勉強を頑張っていきたい」と発表した永久津小6年の大平萌恵さん3 こぼと保育園の園児による、かがり火太鼓の演奏。



的までの距離が四間半(約8.2m)、矢の長さが4尺半(約1.36m)、的の大きさが4寸半(約13.6cm)あることが、四半的の由来です

県内外から160人が参加 四半的弓道の腕競う

3月9日、第39回宮崎県四半的弓道連盟小林大会が南地区体育館で開催されました。開会式で、留野俊光小林支部長が「競技者の高齢化が進んでいるが、大会で交流し、元気にならしてほしい」とあいさつ。団体戦、個人戦に県内外から35チーム計160人が参加し、腕を競い合いました。

准看護学生15人が卒業 決意を胸に看護の道歩み出す

3月5日、一般社団法人西諸医師会立小林准看護学校の卒業式がありました。15人の生徒が看護師としての決意を胸に、親しんだ学舎に別れ。卒業生を代表して松元朱莉さんが「学校で学んだ誇りや人の命を預かることの重大さを胸に、看護の道を歩んでいきます」と決意を述べました。



うちむらだいすけ 内村大介学校長が一人一人に卒業証書を授与。「今後、多くの困難があると思うが頑張してほしい」と卒業生に伝えました